

○令和6年度第2回つくばみらい市総合教育会議

- 1 日時 令和7年1月27日（月）午前10時30分から
- 2 場所 つくばみらい市役所伊奈庁舎 3階大会議室
- 3 出席委員
つくばみらい市長 小田川 浩
教育長 町田 幸子
委員 久下 伸子
委員 安河内 崇代
委員 飯田 文夫
- 4 欠席委員 教育長職務代理者 高橋 秀光
- 5 出席職員
教育部長 鈴木 富夫
参事 越智 壽雄
学校総務課課長 海老原 弘
学校総務課課長補佐 福田 渉
学校総務課課長補佐 荒川 健一
学校給食センター所長 谷口 通夫
学校総務課主査 坂本 真理子
学校総務課主事 秋場 康平
教育指導課課長 嶋田 知成
教育指導課課長補佐 佐藤 志津子
教育指導課係長 鈴木 了平
教育指導課指導主事 平賀 和明
生涯学習課課長 大山 茂
生涯学習課課長補佐 飯泉 克典
文化振興室室長 浅野 博之
スポーツ推進室室長 松信 孝
図書館館長 川田 賢司
伊奈公民館主査 森 伸次
- 6 傍聴人 1名
- 7 協議・調整事項 (1) 令和6年度 教育委員会の事業について
- 8 議事

事務局	【令和6年度第2回つくばみらい市総合教育会議の開会宣言】 ただいまから令和6年度第2回つくばみらい市総合教育会議を開会します。 はじめに、市長から、ごあいさつをお願いいたします。
市長	【あいさつ】 ・今年の漢字「突」：突破力を持って突き進んでいきたい。 ・（仮称）みらい平地区新設中学校の入札について
事務局	それでは議事に入ります。 進行につきましては運営要綱の規定に基づき市長をお願いいたします。
市長	「（1）令和6年度 教育委員会の事業について」説明をお願いします。
事務局	令和6年度 教育委員会の事業について説明 【学校総務課】 ・中学校建設事業 ・教育委員会事務局事業 ・小学校耐震・大規模改修事業 【教育指導課】 ・教育指導事業 ・総合教育支援センター事業 ・グローバル人材育成事業 ・ICT支援事業 【生涯学習課】 ・放課後子ども総合プラン事業 ・コミュニティ・スクール事業 ・コミュニティセンター運営事業 ・文化振興事業 ・図書館資料等整備費事業（電子書籍事業）
市長	ただいま、各担当課の説明が終わりました。 ご意見ご質問等がありますでしょうか。
委員	スクールカウンセラーが増加したことについては、大変素晴らしいと思っています。1回あたり勤務時間はどのくらいでしょうか。
事務局	スクールカウンセラーの1回あたり勤務時間は、約6時間です。
委員	WISC 検査（発達検査）ができることは良いことだと思いますが、予約が常に埋まっている状況とのことです。2人の体制で十分に足りているのでしょうか。
事務局	実際に予約が先のところまで埋まっており、ご案内できるのが2か月先となっています。
委員	かつてのようにWISC検査を学校の先生にお願いするということは考えていますか。
事務局	学校のスクールカウンセラーにお願いしています。
委員	スクールカウンセラーを導入したことで、学校の先生の負担が軽減された

事務局	と思います。今後、増員は考えていますか。 実際に予約が埋まっているということからも、今後、増員を検討していかなければならないと考えています。特に発達検査については、教育支援委員会でも年々協議に挙がるお子さんが多くなっていることもあるため、そのようなことから増やしていきたいと考えています。
委員	学校現場における特別支援教育については、これから非常に多くの課題が出てくるかと思います。今後も更なる充実を期待していますので、よろしくをお願いします。
市長 委員	その他、ご意見ございますか。 いくつかまとめてご意見させていただきます。 全事業について、今年度、昨年度の予算とその比較について記載がありますが、実態が予算額で分かるのでしょうか。 グローバル人材育成事業について、中学校3年生における英検3級相当以上の生徒の割合について、令和3年度は65.2パーセントでしたが、令和5年度は57.7パーセントと減ってしまう原因については検証されているのでしょうか。 また、ある委員会で、中学校3年生でも三単現のsもわからない子がいることは市で把握されているのかというお話がありました。私の中では、英検4級を取得している生徒も大切なのではないかと感じています。 文化振興事業について、今年度実施されたものでは、それぞれどのように予算が使われたのでしょうか。また、ミュージカルでは、小中学校7校（伊奈地区）と記載がありますが、これは一部の地域の方が関わっているのではなく、市内全体で平等に行われているのでしょうか。 最後に、就学援助費について、最低生活費の1.3倍以下とありますが、近年、物価高騰となっている中で、最低生活費を値上げしないのでしょうか。市民の困窮度を推し測って、基準を決定しているのでしょうか。
市長 事務局	それでは、まず予算について、事務局からお願いします。 まず、中学校建設事業ですが、令和5年度は設計の部分のみとなります。令和6年度は新設中学校の工事を計上していますので、大幅な増額となっています。
委員	次に、教育委員会事務局事業ですが、こちらの事業にはかなり幅広い内容が予算に計上されています。細かい内容については、持ち合わせの資料がないため、お時間をいただければと思います。
市長 委員	細かいところまでは不要ですが、気になったのは、予算だと事業実施を決めた時の金額であり、それをどこまで反映したのかが疑問であったため、きちんと実態にあったものとなっていれば大丈夫です。 教育指導課、生涯学習課の予算も確認しますか。 本来は確認したいですが、予算を支出される際に確認をされる方がいるということを再度確認したかったので、そうであるということであれば大丈夫です。

市長 事務局	それでは、続きまして英検について、事務局からお願いします。 学校教育というのは、年度によってお子さまが違ってくるというのが要因の一つとして挙げられます。 また、これは本市の課題でもあります、学校間によって差が見られるということもございますので、全体の底上げを図るところで、授業力の向上というところに教育指導課としては重点を置いています。 また、今年度から英語の教育課程特例校を実施していますので、学校訪問等で授業を参観して助言させていただきます。小学校1、2年生から授業で英語が始まっていますので、こちらは長いスパンになっていくかと思いますが、1年生から英語を実施している成果が出てくるかと思っています。 また、英語に触れる機会として、みらい土曜塾でも英語を実施しています。今回、英検ということですが、中学校の方では英検受験への呼びかけも行っています。今年度は茨城県で学力向上のプロジェクトの一環として、伊奈中学校で群馬大学の先生を招いて授業を行い、それを中学校教員が参観するという事も実施しました。また、1月末に小絹小と小絹中で、中学校の先生が小学校と連携した授業を行う取組みを展開していきます。 教育指導課としては、年度毎の差や、学校間の差について無くしていけるよう授業力の向上等重点を置きながら進めていきたいと考えています。
委員	ありがとうございます。小学校にALTを導入し、英語に特に力を入れてきた成果をどこで推し測るのか、いつか問われるかと思っています。将来的に市民の方が疑問に感じるところをどのように答えていくのかが必要になってくるかと思うので、よろしくお願いします。
教育長	私もこの資料を見た時に、令和4年度は71.3パーセントから令和5年度は57.7パーセントと減少している原因は何か、分かる範囲で教えてください。
事務局	さきほど説明があったとおり、毎年受けるお子さまが違うということで、英語だけでなく、他の教科も含めて、学力のどこに課題があるか確認してくということが必要かと考えています。 また、教員の指導力向上に資する研修を図ってまいりたいと思います。
委員	学校訪問で指導力を向上させるということがありましたが、まさにそれが大切であり、指導主事の先生が直接指導していただくことが重要だと思っています。
市長	さきほど、学年によって差があるということですが、令和4年度の71パーセントと令和5年度の57パーセントには、何か違う理由があるのではないのでしょうか。予算を付けているのに成果が出ていないということになってしまうので、なぜこのようになっているか改めてよく検証が必要だと思います。
教育長	読み書きや長文読解等、色々な問題がありますが、その分析が必要だと感じています。例えば、国や県で比較すると今年は長文読解がよくなかったとか、そういう分析をしていきたいと思っています。

市長 委員	私もそれが必要かと考えます。
教育長	統計はすごく曖昧な部分があります。評価をすることはとても労力がかかりますので、先生方の負担をこれ以上あげるのもあまり良くないかと思えます。分析をどこですか、何の尺度をもってするのかということを市教育委員会として示さないと、現場がひっ迫してしまうかと思えますので、チャートや何かあればそれを利用するのは一つの手かと思われます。他の委員会でも数字だけが独り歩きしてしまう怖さがあり、曖昧なことは言えないと思えますので、どのように何をもって測るのか、また対象等の基準を教育委員会が決めていただければと思います。
市長 事務局	県や市における分野におけるパーセンテージは出ていますので、そのあたりは検討できるかと思えます。
市長 事務局	続いて、文化振興について事務局から説明をお願いします。 文化振興事業の予算から説明します。放課後子ども総合プラン事業ですが、前年比較で増となっています。増の理由については、民設児童クラブが2ヶ所設置されたので、費用が上がっております。 続いて、コミュニティ・スクール事業ですが、学校運営協議会が富士見ヶ丘小学校で令和5年10月から始まっていますが、今年度は、谷和原小学校、福岡小学校、小絹小学校、小絹中学校と4校で始まっていますので、委員報酬が増加しています。 続きまして、コミュニティセンター運営事業ですが、令和5年度に予定していたエレベーターの改修工事が繰り越しとなったため、その分が減額となっています。 文化振興事業については、市民参加型ミュージカルを令和6年から8年までの3年で計画していますが、こちらが新規の事業となるため、増となっています。 さきほど、文化振興事業で市民ミュージカルについてご質問いただきましたが、令和6年度については、伊奈地区7校となっていますが、令和7年度については、谷和原地区で開催し、令和8年度については、市全体として実施したいと考えています。 図書館資料等整備費事業については、電子書籍の事業となっています。こちらの電子書籍が始まったのが、令和5年7月からとなっています。初年度については、システムの導入費用がかかりましたが、令和6年度については、2年目ということでシステムの導入費用がないため、減額となりました。
市長 事務局	最後に、就学援助について、事務局説明をお願いします。 就学援助は、経済的な理由で就学が困難なご家庭に支給している制度となります。 厳密には、要保護、準要保護と言いますが、まず、その基準に合うかどうかについては、こちらは厚生労働省管轄の生活保護制度の最低生活費を基準としております。こちらの基準については、厚生労働省でも定期的に見

	直しを行っているそうです。そのため、所得等に応じて、見直しが測られるものと考えていますので、こちらの準要保護でも、その最低生活費の1.3倍を基準として、基準に合うか審査をさせていただきます。 委員の仰るとおり、物価高騰など先行き不透明な中で、学用品費や校外活動費、修学旅行費、給食費等の様々な支給項目については、実態に即した支給を行っていますが、今後も金額が上げられるのか検討してまいりたいと思います。
委員	成長率として日本一を遂げたつくばみらい市の次の課題は、成熟度をどこまで上げていけるのかが一つの課題かと思います。その成熟度は、本当に困っている方々への手助けとしてどこまでできるのかというのだと思います。金銭的なことが大きいかと思いますが、文化的なことや病院のことであったりと色々な補助があつての成熟度だと思っています。その中で本当に貧しい方々に手を差し伸べられるような、そして、そういう方々にも教育が行き届くような市の教育であって欲しいと思います。
市長 委員	その他ございますか。 報道等で、子どもが少なくなっているのに教育費が圧迫されているために結婚ができない、と思っている若者が増えているということが、関連しているのではないかと思います。一方で、双子も増えているということもあります。子どもがたくさんいる家庭もそうですが、双子の場合はいっぺんに負担がかかるということがありますので、就学援助等で市で独自に支援があると良いのではないかと思います。 また、新設中学校の建設がありますが、中学校の制服は高価なものです。他の自治体では、転校しても買い直さなくていいように全ての中学校を同じ制服にした事例があります。中学校の準備には想定以上に費用がかかることが多いため、子育てに力を入れていくということで何か考えてもいいのではと思います。 コミュニティ・スクール事業や文化振興事業等に関わることについて、英語教育は素晴らしいことですが、外国人もいるなかで、日本の文化に触れる機会が少ないかなと感じました。部活動でも働き方改革で、外部のコーチなど地域を巻き込んでいく、コミュニティ・スクールも地域を巻き込んでいくという流れの中で、クラブ活動等の小学校時代に経験したことはすごく強烈で覚えているということがありますので、市として色々打ち出すことはいいですが、結局それに参加することができる子とできない子で格差が生まれてしまうと思います。そのため、授業のカリキュラムに組み込まれると一番底上げになるのではないかと思います。地域の文化協会等で色々携わっている方もいますので、そういったところで繋げられるといいかなと思います。 図書館の電子書籍化はありがたいことだと思います。これから中学校も実施していくということで心強いです。現在、電子図書館専用カードを配布されたということですが、図書館で使用するカードとは別物でしょうか。

市長 事務局	司書の方が学校に常駐されますと、学校と図書館で同じカードとすることで電子書籍化が定着していくのではないかと思います。どこをゴールにして、この事業を進めているのかがお尋ねしたいです。例えば図書館で借りた本が学校で返せるということが可能になりますし、中学校になりますと、図書室というのは、一人の生徒の居場所にもなってきますので、そこに司書の先生が常にいらっしゃることも非常に大切なことだと思っていますので、図書カードの電子化ではありますけれども、色々なゴールがあるのかと思います。目指すところを持っていたいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。 事務局から説明をお願いします。
市長 事務局	コミュニティ・スクール事業については、各学校でどのような形にしたいかというところで、計画を立てていただきます。学校運営協議会が設置されますと、地域の方を巻き込んで、授業の一部などを行っていきます。その中で、例えば地域の方が講師になったり等が考えられるかと思います。 図書館事業について、資料で電子図書館専用カードとありますが、基本的には今のカードを利用していただきます。電子図書館専用カードには、IDとパスワードを入力すると、カードを持たなくても利用することができるものになります。実際に紙の方ではカードを利用しますが、例えばご自宅のパソコンから電子書籍を借りる場合は、IDとパスワードで借りることができます。このIDとパスワードを学校に配布しています。目指すところとしては、電子書籍一本化は難しいところもありますので、しばらくの間は、電子書籍と紙媒体の両方で実施していきたいと思っています。図書館で借りた本を学校で返せるかということですが、こちらについては、管理が別であるため、現状はできないということになります。 図書館の本は学校で借りられないのでしょうか。
委員 事務局	図書館の本を、団体貸出という制度で、各学校から要望があった場合は、そのテーマに基づいた本を司書が選書して学校に貸し出しているということは実施しています。 図書館と学校図書館の本は予算が別なんでしょうか。 予算は別となっています。 陽光台小と富士見ヶ丘小については、当初から図書室の電算化をしており、予約が簡単にできていましたが、その他の学校については、令和4年度から計画をもって、毎年2、3校ずつ電算化を進め、今年度で全ての小学校で電算化がされました。また、中学校については来年度から進めてまいります。今後は予算の関係もありますので、横の関係等は考えていくつもりであります。 また、個人で借りる子も昔からおりますが、今回学校で電子図書を実施した際には、令和5年7月に全校生徒、令和6年には新入学生にカードを渡して、例えば学校のパソコンでみんなでみられるようにするとか、それ以外に各図書館の本館分館でみんなで借りたいという場合には、団体貸付が

委員	あります。
	図書の電子化はいいと思いますが、その先には横のつながりや市全体で本を届けるということもあるのかなと思います。
	図書室も子どもたちには居場所の一つだと思いますので、ご検討いただければと思います。
市長	他に質問等ありますでしょうか。
	なければ、続きまして、その他に入ります。
委員	教育棟には保護者も来るかと思いますが、面談の部屋也没有。深刻な相談の際は、総合教育支援センターを利用するのもいいと思いますが、学校行事等で利用したい時等には利用できる場所がないですね。
委員	見られたくないこともあると思いますが、パーテーションもないので、そういうものもあればまた違いますよね。
市長	その他なければ、以上で終了して、事務局に戻します。
事務局	市長、議事進行ありがとうございました。
	【令和6年度第2回つくばみらい市総合教育会議の閉会宣言】

上記決議を明確にするため、本議事録を作成する。

令和7年1月27日

市 長
教 育 長

小田川 浩
町 田 幸 子